

地域を記す

地域の歴史や文化の記述を巡る小考

笹原亮二

Describing the Region : A Brief Review of the Description of Regional History and Culture
SASAHARA Ryoji

はじめに

- ① 柳田国男『北小浦民俗誌』を巡って
- ② 北小浦研究会「調査 北小浦の民俗」を巡って
- ③ 沖繩の字誌
おわりに

論文要旨

人々が実際に暮らしてきた地域やそこで行われてきた様々な事象をいかに調査し、研究し、いかに記述するかを巡っては、同じ地域を対象としたとしても、その理解やそれに基づく記述は人によって同じではなく、従って、様々な理解や記述の中でどれがより妥当性が高いかという問題が常に存在する。本稿では、民俗学における同一地域に関する二つの異なる著作である柳田国男の『北小浦民俗誌』（柳田一九五四）と福田アジオらによる「調査 北小浦の民俗」（福田編二〇〇一）、更には沖繩で盛んに刊行されている字誌の検討を通じ、若干の問題の整理を試みる。柳田の『北小浦民俗誌』に対しては、福田を初め近年の民俗学者は、自らの現地調査に基づくのではなく、他人の採集手帳に基づく著作であること、他人の採集手帳を用いながらも、その内容を取

捨選択して利用していることなどの理由から、総じて低い評価しか与えていない。しかし、柳田の同書を著した意図や、地域を常に歴史的な文脈において捉えようとした柳田の基本的な視角などを踏まえると、『北小浦民俗誌』を否定的にのみ捉える必要はなくなる。こうした柳田の『北小浦民俗誌』と福田らの『北小浦の民俗』の比較検討に加えて、沖繩で盛んな、住民が自らの住む地域の歴史や文化を自ら調べて著そうとする字誌作成の運動の実践を併せて視野に収め、比較検討することで、特定の地域に関するよりよい理解や記述の実現にむけて、一定の知見を得ることが期待される。

【キーワード】 民俗誌、柳田国男、地域研究、佐渡島、沖繩